

主要Q&A

2015年度第3四半期

<全社>

Q: 2015年度第3四半期決算（2015年1-9月 vs 2014年1-9月）の実績概要は。

A: 第3四半期実績は、各事業において好調な成長モメンタムを維持いたしました。
その中でも、海外たばこ事業が高い成長を遂げており、そのプライシングを主因に、KPIである全社の為替一定調整後営業利益は11.6%成長いたしました。
売上収益は、海外たばこ事業における現地通貨対ドルの為替のネガティブ影響があるものの、海外たばこの単価効果、円安効果、医薬・加工食品の好調等により対前年で微増となりました。
営業利益は、ルーブル等の為替のネガティブ影響を円安効果が相殺しきれなかったことに加え、不動産除却損の計上、前年と比較して不動産売却益が減少していること等により、7.2%減となりました。
継続事業*からの四半期利益については、対前年で法人所得税費用が減少しておりますが、営業利益の減益を受け、5.2%の減少となっております。
非継続事業も含めた四半期利益には、飲料製品の製造販売事業からの撤退関連費用の計上はあるものの、飲料事業におけるオペレーター事業子会社の株式譲渡益により、大幅な増加となりました。

※当第3四半期より、飲料事業を非継続事業に分類しております。これにより、非継続事業からの利益又は損失は、「非継続事業からの四半期利益（親会社所有者帰属）」として、継続事業と区分して表示しております。なお、前年同一期間の実績についても、同様に組み替えて表示しております。

Q: 2015年全社修正見込の概要は。

A: 為替一定での調整後営業利益は、海外たばこ事業における各市場でのGFB好調と着実なプライシング効果、国内たばこ事業における免税市場等の好調および効率的な経費執行、医薬事業の実績の改善により、上方修正いたします。
売上収益は、為替のネガティブ影響が拡大すると見立てていることから、100億円減少となる見通しです。
営業利益、継続事業からの当期利益については、前回見込から変更はございません。
非継続事業からの当期利益は、飲料製品の製造販売事業からの撤退関連費用を精緻化したことにより、30億円の上方向修正となりました。これを受け継続・非継続を合わせた当期利益につきましては、前回見込から30億円の上方向修正をいたします。

<海外たばこ事業>

Q: 2015年1-9月期実績の概要は。

A: 海外たばこ事業では、需要の最盛期を迎えるとして注視していた夏場においても、良好な事業環境を背景に好調を維持し、1-9月の累計期間でも力強い成長を達成しています。
GFB販売数量は、多くの市場でシェアを伸ばしたことから、5.7%と高い成長となりました。
総販売数量は、各市場での総需要の減少や、ロシア等でのMid-price/Value価格帯での競争激化による影響や、中東における数量減少影響がありましたが、GFBのパフォーマンスに牽引され、対前年でほぼフラットとなりました。
為替一定の自社たばこ製品売上収益、および調整後営業利益は、GFBの好調に加え、値上げの機会を着実に捉え力強いプライシングが実現できたことから、それぞれ7.3%、13.3%と大きく成長いたしました。
一方、財務報告ベースでは、ルーブル等の現地通貨安による為替のネガティブな影響が継続し、大幅な減益となりました。
また、円ベース調整後営業利益は、円安のポジティブ効果はあるものの、現地通貨対ドルのネガティブ影響により、7.7%の減益となりました。

Q: 2015年1-9月期のクラスター別実績は。

A: South & West Europe、North & Central Europeの2つのクラスターにおけるパフォーマンスは引き続き好調なものとなりました。7-9月では、総需要が減少する中、シェア伸長により、それぞれのクラスターで総販売数量、GFB販売数量ともに対前年で増加しました。紙巻きたばこ、Fine Cutともに数量を伸長させております。

South & West Europeクラスターでは、殆どの市場で販売数量が成長いたしました。

特にイタリアでは、Winston、Camelのモメンタムが強く10%を超える数量成長を実現しております。

フランスでも、GFBを中心に前年を上回る実績となりました。

スペインでは、4-6月への出荷の期ズレがあったため、販売数量は対前年で減少しておりますが、シェアは堅調に推移しております。

North & Central Europeクラスターでは、チェコ、ドイツ、ハンガリーおよびポーランド等でGFBが好調に推移しました。

中でも、Winstonが大きく伸張し、GFB販売数量は対前年で13%と非常に高い成長となりました。

UKでは、総需要減少により販売数量は減少しているものの、Amber Leaf、Sterlingが堅調なパフォーマンスを見せており、シェアも引き続き伸長しております。

CIS+クラスターでは、ロシアでの総需要減少およびMid-price/Value価格帯での競争継続により総販売数量が減少しましたが、GFB販売数量は各国での好調なモメンタムにより、対前年でほぼフラットとなりました。特に、ウクライナではダウントレーディングを捉えたLDが好調に推移いたしました。

ロシアでは、7-9月の総需要は対前年で4.2%の減少と比較的緩やかなものとなる一方、Mid-price/Value価格帯における競争はこれまで以上に激しいものとなっており、シェアの減少に歯止めをかけるべく様々な取り組みを行っております。

このような中、総販売数量は6.6%減となりましたが、GFB販売数量は3.9%減に留まっております。

1-9月の総需要は5.4%の減となりましたが、7月に実施した値上げの影響を見極める必要があることから、1-12月のロシア総需要の見通しについては、7~9%減のレンジの上限近くを想定しています。

Rest of the Worldクラスターは、トルコにおけるCamelのリポジショニング効果が一巡したことや、一部市場における不安定な事業環境が継続したことから、7-9月の販売数量は対前年で減少いたしました。

トルコでは、前年7-9月のCamelのリポジショニング後に出荷数量の水準が極めて高かったことによる相対的減少により、対前年同期では、総販売数量、GFB販売数量ともに減少しております。一方、足元でのWinstonの好調継続に加え、Camelシェアは前年を上回る水準を維持しております。

台湾では、販売数量、シェアともに前年を上回る実績となりました。

Q: 2015年海外たばこ事業修正見込の概要は。

A: 欧州での想定を上回るモメンタム、事業環境の好転を主因に、GFB販売数量前提を上方修正いたします。
一方、総販売数量の見通しは、中東でのGFB以外のパフォーマンスを反映し、前回前提を据え置きます。

為替一定の自社たばこ製品売上収益、および調整後営業利益は、GFBの好調に加え、堅調なプライシングが実現できたことを主因に上方修正いたします。

この結果、調整後営業利益の成長率の目標は8%から10%へ引き上げます。

なお、10-12月の販売数量、利益成長は大幅に減速して見えることとなります。

1-9月はトルコでのCamelリポジショニング効果や、欧州での流通在庫の充実等の特殊要因により数量が強めに出ておりましたが、10-12月はその要因がなくなります。

また、10-12月のコストについては、Emerging Products分野において既に関収が完了したE-Lites、LOGICへの投資、地理的基盤の更なる強化に向けた投資、既存ブランドのエクイティ強化等、積極的な事業投資を継続させていくことから、大幅なコスト増を見込んでおります。

出荷ベースで見ると、四半期ごとに変動はあるものの、GFBを中心に多くの市場でシェアが好調に推移していることに加え、プライシング環境は引き続き強固なものと認識しており、トップラインのモメンタムに変化がある訳ではありません。

為替の影響については、前回見込における想定レートよりもRUB安を見込み、ネガティブなインパクトが拡大した分が、為替一定ベースの上方修正を相殺するため、報告ベースでの自社たばこ製品売上収益、調整後営業利益は前回見込から変更いたしません。

また、円ドルレートについても前回想定レートよりも若干ながら円高を見込みますが、円ベースの為替込の調整後営業利益は前回見込からの変更はございません。

<国内たばこ事業>

Q: 2015年度第3四半期（2015年1-9月 vs 2014年1-9月）の概要は。

A: 1-9月の総需要は-2.2%と想定よりも緩やかに減少しております。

しかしながら、サブプレミアム価格帯において競争が激化していることから、1-9月の販売数量は対前年3.1%の減少と、ほぼ見込んでいた減少率通りで推移しております。

自社たばこ製品売上収益は、販売数量の減少があるものの、主に1-3月に発現した単価上昇効果および国内免税市場での好調が一部相殺し、1.1%の減少となりました。

調整後営業利益は、単価上昇効果や、4月以降に発現している競争力強化施策効果により5.1%増加し、着実な利益成長を実現しております。

Q: シェアの状況は。

A: 競合他社によるベースラインよりも低い価格帯への新製品投入など厳しい競争環境の中でも、JTシェア、MEVIUSシェアはそれぞれ底堅く、安定した実績を示しました。

そのような中、中核であるMEVIUSをはじめ、販売促進やエクイティ向上のための投資を引き続き積極的に実施しております。

7-9月には、Caster、CabinのWinstonへのブランド統合や、伸長を続けるメンソール・ラインへの新製品投入によるSeven Starsへのサポート等を実施いたしました。

今後も更なるブランドポートフォリオの強化に取り組んでまいります。

Q: 2015年国内たばこ事業修正見込の概要は。

A: 足元の総需要が想定よりも強めに推移していることから、対前年で2.0%強の減少に留まるものと見込んでおります。総需要は強めと見立てている一方、競争環境は想像以上に厳しいとも認識していることから、販売数量は前回見込を据え置きます。

自社たばこ製品売上収益は、免税市場等の好調を反映し、上方修正いたします。

また、調整後営業利益につきましては、売上収益の上方修正に加え、効率的な経費執行を織り込み、上方修正いたします。

なお、経費執行については常に効率性を追求しておりますが、MEVIUS、Winston等のブランド・エクイティの強化に向けた投資についても、継続してまいります。

<その他>

Q: 2015年の配当の方針は。

A: 中長期的な成長戦略の実施状況および連結業績を踏まえ、1株当たりの当期末配当金を10円引き上げ、64円といたします。中間配当の54円と合わせ、2015年度の年間配当金予想を118円に引き上げます。

配当金については中長期に亘り、安定的・継続的に向上させる方針に変更はありません。

2016年およびそれ以降の株主還元の方針については、来年2月の本決算発表時にお示しいたします。